

川越市高齢者保健福祉計画・  
第9期川越市介護保険事業計画  
骨子（案）作成に向けた土台について

---

# 基本理念の考え方(原則として変更しない)

## 基本理念

豊かな歴史・文化にはぐくまれながら、  
一人ひとりにふさわしく、いきいきと充実した  
生活を送れるまちの実現



### 第8期計画で整理した内容

本市は、遠く古代から人と人がつながり、「豊かな歴史・文化」がはぐくまれ、受け継がれて発展してきました。これからも、私たちは、住み慣れた地域の中で培った人と人、人と地域とのつながりを保ちながら、市内の各地域で受け継がれてきた豊かな歴史と文化を次世代に継承する役割を担っていきます。そして、市民一人ひとりが、生きがいを感じながら、いきいきと充実した生活を送れるようなまちの実現を目指します。

# 第9期計画の骨子(イメージ)

## 基本理念

豊かな歴史・文化にはぐくまれながら、一人ひとりにふさわしく、いきいきと充実した生活を送れるまちの実現

## 基本方針

(施策の柱)

(施策の柱)

(施策の柱)

(施策の柱)

(施策の方向性)

これらを作成するための”土台”となるキーワードを検討したい

# 土台づくりの検討に向けた3つの視点

視点1

高齢者像の変化

視点2

第8期計画の振り返りシートから見えた主な課題

視点3

事務局が考える川越の強み

# 視点1 高齢者像の変化

## 川越市

### ・健康寿命の延伸

男性 17.61年(H30)→18.01年(R3)

女性 20.17年(H30)→20.66年(R3)

※埼玉県調べ(65歳以上に達した県民が健康で自立した生活を送ることができる期間(具体的には介護保険の要介護2になるまでの期間))

### ・後期高齢者数が前期高齢者数を上回る

※介護保険事業状況報告R2.3時点

### ・収入のある仕事をしている方の割合は横ばい

27.0%(H28)→24.3%(R4) ※ニーズ調査

### ・外出を控える割合の増加

(足腰の痛み・コロナ禍・トイレの心配等)

22.6%(H28)→38.5%(R4) ※ニーズ調査

### ・要介護1・要支援1の人数が年々増加傾向

要介護1 2,818人(H28)→4,062人(R4)

要支援1 1,388人(H28)→2,196人(R4)

※要介護・要支援認定状況(介護度別・2号含む)  
各年度3月末時点

## 国

※出典:高齢社会白書

### ・平均寿命が延伸 ※0歳における平均余命

男性80.98年(H28年)→81.47年(R3年)

女性87.14年(H28年)→87.57年(R3年)

### ・健康寿命が延伸

男性72.14年(H28)→72.68年(R元)

女性74.79年(H28)→75.38年(R元)

※健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間

### ・インターネット使用頻度の増加

(65歳以上毎日少なくとも1回) 43.2%(H28)→55.9%(R2)

### ・就労している方の割合の増加

65-69歳 42.8%(H28)→50.8%(R4)

70-74歳 25.0%(H28)→33.5%(R4)

75歳以上 8.7%(H28)→11.0%(R4)

### ・体力を維持できている新体力テストの結果

65-69歳 男性42.3点(H27年度)→41.4点(R3年度)

女性41.7点(H27年度)→41.6点(R3年度)

70-74歳 男性39.0点(H27年度)→38.9点(R3年度)

女性38.7点(H27年度)→38.4点(R3年度)

75歳以上 男性35.4点(H27年度)→35.3点(R3年度)

女性35.3点(H27年度)→35.5点(R3年度)

「コロナ禍の影響はあるものの若返っている」

## 視点2 第8期計画の振り返りシートから見た課題

- 自身の健康に関心が持てていないなど健康づくりへの取組がまだ十分ではない
- 状態に応じた適切な介護予防の取組が浸透していない
- 地域活動の役割を担ったり、地域活動の参加に至っていない
- 認知症になると役割を奪ってしまうことがある
- 認知症状の進行により家族等が介護の面で不安になる
- 認知症状や困りごとを早期に相談や支援につなげられていないケースがある
- 地域とのつながりが希薄化している
- 退院後、在宅生活へ円滑に移行ができていないことがある
- より一層、ケアプランを自立支援に資するプランにする必要がある
- 介護の魅力発信、介護人材のマッチングの機会の創出等を行う必要がある

※ 令和5年7月3日 第8回川越市介護保険事業計画等審議会

資料5-2 ~ 資料5-6 川越市高齢者保健福祉計画・第8期川越市介護保険事業計画 振り返りシート より抜粋

## 視点3 現状から事務局が考える川越の強み、その前に・・・

### 第7期計画時の意見

- 保健推進員や介護予防サポーターの存在
- 歴史のある地区組織と助け合いの会など新しい活動の共存
- 認知症施策に積極的な取組
- 地域に多くあるボランティア活動
- お祭りなど社会参加のきっかけが多い
- いきいきエイジング（介護予防の言葉:いきいきと年齢を重ねていくこと）

「介護予防」

## 視点3 事務局が考える川越の強み

### 事務局案

- 歴史、伝統、文化と豊かな自然
- 川越まつりなど催事が多い
- 地元への愛着や誇りがある
- 電車やバスなどの公共交通の便が良く暮らしやすい
- 時と人を結ぶまち  
(川越市のキャッチフレーズ)
- 人がつながり、魅力があふれ、だれもが住み続けたいまち 川越  
(第四次川越市総合計画 将来都市像)

「つながり」

### 視点1

- コロナ禍でも高齢者は昔より若返っている

### 視点2

- 健康づくりへの取組が十分でない
- 介護予防が浸透していない
- 地域での役割や活動参加に至っていない
- 認知症になると役割を奪ってしまう
- 認知症状の進行により家族等が不安になる
- 困り事を早期に相談につなげられないことがある
- 地域とのつながりが希薄化している
- 在宅生活へ円滑に移行ができていないことがある
- ケアプランをより一層自立支援に資するようにする
- 介護サービスを受けず、重度化ないようにする
- 介護の魅力発信、介護人材のマッチングの機会の創出

### 視点3

- つながり

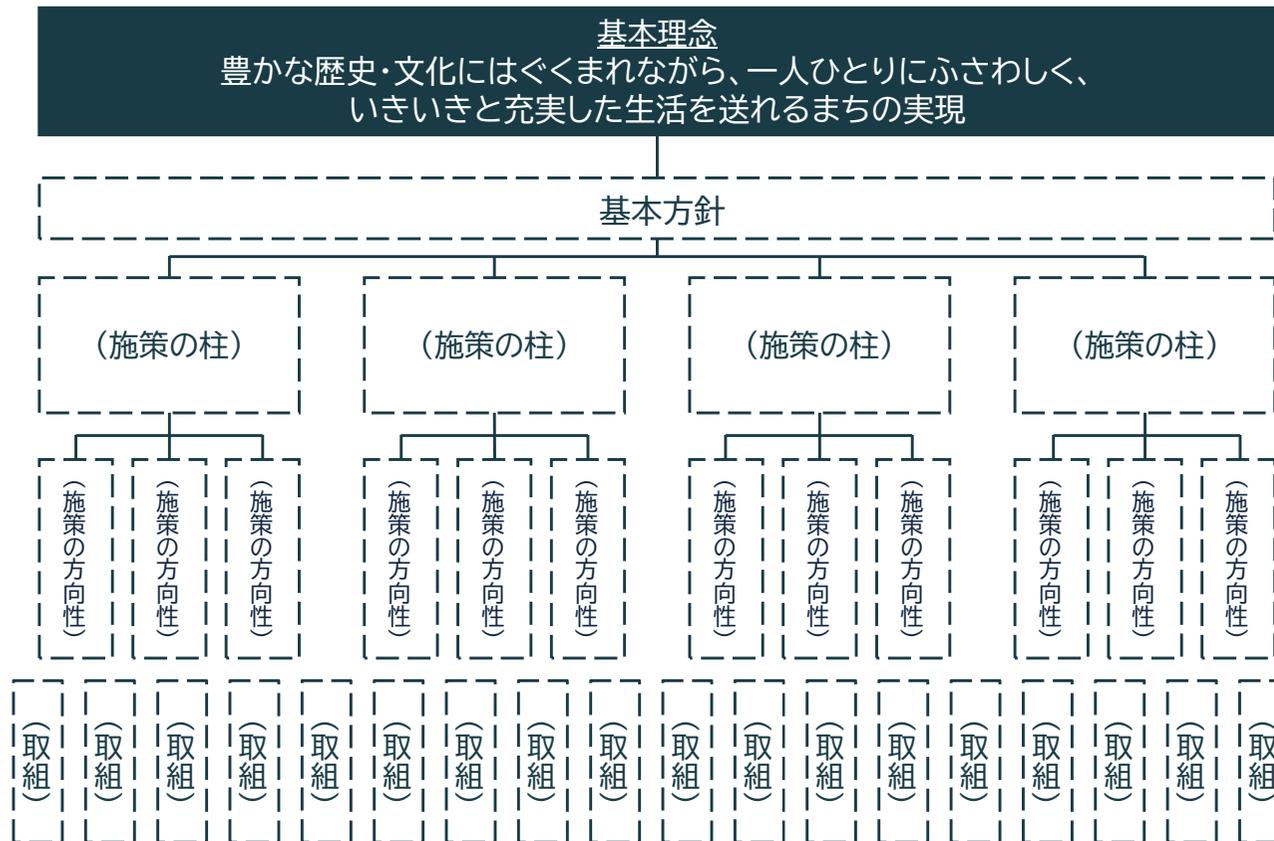
「つながり」を活かした環境づくり

# キーワードを基に推進したいこと

「つながりを活かした環境づくり」によりさらに推進したいこと

- 社会参加の機会の場をつくり、役割や活躍の場をつくります
- 誰もが気軽に集まれる場をつくります
- 誰もが安心して外出できる環境をつくります
- 専門職が関与することで、本人主体の支援を行います

## 「つながり」を活かした環境づくり



骨子(案)への反映

具体的な取組への反映